



結

2022. 1. 22 No.103 yui

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0004

つくば市柴崎 68-103

TEL/Fax 029-858-2034



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>

憲法9条を守るために

2022年の通常国会が始まりました。昨年10月末の衆議院選挙で改憲勢力が3分の2を超え、今夏には参議院改選が控えており、今年は正に憲法9条を守り抜くための正念場です。

憲法審査会の動向

昨年12月16日、臨時国会の終盤、衆議院では急遽、憲法審査会が開催されました。この審査会で注視すべきは、国民投票法改正案と憲法改正案を同時並行で審議すべきとの声が高まっている点です。国民投票改正案には、CMやインターネット広告規制及び最低投票率が規定されておらず、依然として不備がありますが、国民投票法に関する審議が完結せずとも、並行して憲法改正本体の討議を進めようとしているのです。自民党は、9条への自衛隊明記、緊急事態条項、参院選合区解消、教育環境の充実からなる憲法改正4項目を提案しています。集团的自衛権の行使ができる自衛隊を9条に明記することは、戦争を放棄する9条を無力化させるもので、これは改正ではなく改悪そのものです。自民党は昨年11月19日、党内の憲法改正推進本部の名称を、憲法改正実現本部に改称しました。岸田首相は、精力的に憲法改正に向けた議論をすべしと檄を飛ばし、敵基地攻撃能力にも前向きで予断を許さぬ状況です。



今こそ、憲法9条を生かす時

憲法9条に、集团的自衛権を有する自衛隊を明記することは、その行使につながっていきま。現在、我が国周辺での有事の可能性が喧伝されていますが、万が一にも、日本と密接な関係にある国が、他国と交戦状態になり、我が国が集团的自衛権を発動したら、日本も交戦国となり、戦争に加担することになります。その時は、日本国内の米軍基地が真っ先に攻撃対象となり、多くの市民が戦禍に巻き込まれます。そうならないため、集团的自衛権を行使させてはなりませんし、その伏線となる9条改悪はなんとしても阻止しなければなりません。

過去の戦争の多くは、自国を守るための自衛を名目にした戦争でした。他国の軍事的脅威や攻撃抑止を理由にした軍事力強化は軍拡競争をもたらし、双方の脅威が増し続ける悪循環から抜け出せません。危うさの最たるものは核抑止力です。ひとたび核戦争が勃発すれば、人類の破滅につながります。年明け1月3日には核兵器保有国である米露中英仏の5カ国が「核戦争に勝者はなく、決して戦ってはならない」との共同声明を発しました。人工知能を用いた無人兵器の出現は、感情なく機械が攻撃を判断し戦争する時代の到来です。軍事の抑止力による均衡は、やがて行き詰まって限界に達するでしょう。これからは、軍事の抑止力に拠らずに、平和をつくるための論理と行動が求められています。今こそ、戦争放棄の憲法9条の理念を世界は必要としているのではないのでしょうか？ 互いの国が友人となり、緊張緩和していく道は平坦ではないかもしれませんが。しかし、人類が目指すべき道であり、9条の理念はその道につながっています。この人類にとって価値ある憲法9条を改悪することなど、もってのほかであって、今、必要なことは、この9条の理念を国際平和のために現実に生かしていくことです。

参院選に向けて

昨年の衆議院選挙の結果は、憲法改正を企図する勢力が、与党に一部の野党も加わり、3分の

2を超えました。憲法改正の発議は、憲法96条により、各議院の総議員の3分の2以上の賛成でできますが、今夏の参議院改選の結果次第では、憲法改正が発議される可能性が高まります。参議院の定数245名の3分の2は164名ですが、現在の参議院の政党別の議員数では、与党と改憲に前向きな一部野党を加えた場合、この人数を超えています。来る参院選では半数の議員の改選が行われますが、非改選の議員のうち、改憲に前向きな政党の議員は少なくとも82名います。もし、改選対象の議員のうち、改憲派の議員が82名以上となると、両院で改憲に賛同する議員が3分の2以上となり、憲法改正が国会で発議されることにつながります。

改憲阻止のために

日本国憲法の前文の冒頭は、「日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し」とあります。私たちは来る参院選で、どの候補者が憲法9条を守る国会における私たちの代表者であるのか、よく見極めて投票することが問われています。そして今、多くの市民にこの選挙の重要性と憲法9条がいかに平和を守るために大切であるか、広く伝えていくことが求められています。9条改悪の国会発議をまず食い止めなくてはなりません、万が一、国会で憲法改正が発議されたとしても、憲法改正の是非を決めるのは国民投票を行う主権者である私たち市民です。皆でさらに憲法に習熟して、戦争に巻き込まれないために、9条を守ることがどれだけ大切であるか、多くの人々と思いを一つにしていきましょう。そして、改憲阻止のために、全国各地の9条を守ろうと立ち上がる人々と連帯して声をあげ、行動していく1年であります。願います。「共に闘いましょう！ 憲法9条を守るために」

石上俊雄（9条つくば共同代表）

新役員体制（憲法9条の会つくば）についてご報告

新役員体制について「設立記念のつどい」でご報告すべきところですが、昨年はコロナ感染防止のため「記念のつどい」を開くことができず、報告ができませんでした。「結」の場をお借りしてご報告します。

2021年1月の世話人会で共同代表の交代を決め、7名からなる相談会で役員交代について検討してまいりました。さらに新たに役員を引きうけてくださる方々に入っただいて新体制について検討する中で、新役員候補の複数の方から連絡調整などの組織体制がわかりにくいという意見が出され、また世話人会が実質的には事務局会と変わらないメンバーとなっている現状を踏まえて、世話人会の扱いなども検討してまいりました。これらの検討を踏まえて新体制について事務局案をまとめ、全世話人に連絡を取ったうえで、昨年11月20日の世話人会で新しい役員体制案について事務局から提案し、了承されました。以下は新役員体制の概要です。

<組織体制の変更>

- 1) 奇数月に毎回行っていた世話人会は行わない。代わりに事務局会を毎月開く。通常の運営に必要な決定は事務局が行う。総会前など必要な時期には世話人会を開催する。
- 2) 事務局体制の連絡調整を廃止し、事務局長と事務局次長を事務局に置く。事務局長と事務局次長が議題提案を行い事務局会の運営を行う。共同代表は必要に応じて事務局会議に参加する。

<新役員体制>

- ・共同代表：石上俊雄、穂積妙子（1年または2年任期）、武田照子（1年任期）、堀部一寿
- ・事務局長：阿部眞庭 事務局次長：後藤義昭、野崎浩司（1年任期）
- ・事務局員：事務局長と次長に加えて 石上俊雄、長田満江、佐藤良子、武田照子、穂積妙子
- ・結編集担当：後藤義昭（編集長）、穂積妙子、長田満江、三浦克洋、塩川まゆみ
- ・署名担当：阿部眞庭、長田満江、穂積妙子
- ・賛同人担当：児玉尚子、野崎浩司

- ・HP担当：吉門洋
- ・会計担当：佐藤良子、武田照子
- ・会計監査：木村厚子、平野英代

<その他の申し合わせ事項>

- ・共同代表は対外的・対内的に会を代表する。
 - ・任期付きの共同代表の補充は、現共同代表及び事務局と相談しながら相談会が引き続き行う。
 - ・世話人は代表や事務局と共に、設立のつどい（総会）や各種行事の実行に協力する。
 - ・毎月の事務局会は第3土曜日午前に行う。
 - ・規約は当面変更せず、必要な時期に修正する。
- 報告は以上です。（野崎）



当会では毎月第3日曜日に定例署名、9日に9の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりNO@つくば」と共に、毎月3日「アベ・スガ・キシダ 政治を許さない」スタンディングと署名を行ないます。

「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2022年1月15日現在

総数 1015名 (市内 725名)

◆改憲発議反対署名 1月15日現在 758筆

定例署名 報告

▼11/9までは「9条改憲 NO! 改憲発議に反対する全国緊急署名」用紙を用いていました。11/12に9条の会から「総選挙後の改憲問題の新たな局面を迎えて」の声明が発表され、署名用紙も「憲法改悪を許さない全国署名」と一新されました。この新署名は今までと異なる署名ですので、今まで署名して下さった方でも、改めて署名が可能です。賛同人の皆様の署名をお願いします。当会では12/9に新署名用紙にて署名活動をアルス前の遊歩道で、横断幕を掲げて荒牧さんの抒情歌の流れるなか、8名と1匹のワンちゃんが参加し、12筆の署名を頂きました。(阿部眞庭)



1月3日 スタンディング報告

▼1月3日改憲を許さないスタンディングと署名活動を11人の参加で賑やかに行いました。12月はとても反応がよかったのですが、今回は今一つでした。(佐藤)

▼今年につくば市の成人式は、コロナ対策として9日、10日の2日間開催され両日とも午前午後の2部制でした。9条の会つくばは10日の午前、午後の両方で宣伝行動に取り組みました。午前6名、午後6名(新婦人からの助っ人含む)の延べ12名で行動しました。署名を呼び掛ける横断幕をかかげ、おめでとうチラシ入りティッシュを渡すと多くの新成人と付き添いの家族の方は「ありがとうございます」と言って受け取ってくれます。普段のチラシ配りとは全く違う雰囲気です。今年は午前午後の合計で275個のティッシュを渡すことができました。新婦人の会員さんの話では、原爆ドームの絵柄の横断幕の写真を撮っていた新成人もいたとのことです。(H)

成人の日署名 報告

▼12月8日は80年前日本軍が宣戦布告もなくハワイを急襲した日米開戦の日として知られています。今年の不戦のつどいは、8日より少し早く12月5日(日)午後松代交流センターで開かれました。事前申し込み制で定員30名でしたが、28名の参加で、会場はほぼ満員になりました。今年は広島で被爆された茂木貞夫(もぎさだお)さん、87歳のお話をもとに作成された紙芝居の上演と、茂木さん本人のお話でした。茂木さんは小学校6年生で登校途中、爆心地から約1.4キロの地点で被爆、道の反対側の塀の下敷きになっていました。一緒にいた友人は今も行方不明のままです。茂木さんの顔はやけどで真っ赤になっていましたが、なぜか痛みは感じなかったといえます。自宅に帰つたあとは人事不省になり、気がついたら刑務所内の臨時病舎に寝かされていたとか。その後父親の出身地である茨城県に転居され、平和の語り部として戦争の恐ろしさや戦争反対の意思を今も伝え続けておられます。今回上演の紙芝居は茨城大学紙芝居研究会が作成した「戦争の紙芝居三部作」の中の一作です。現在は「次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ」という会が県内各地で上演を行っています。子どもたちにぜひ見てもらいたい内容のものです。「オリーブ」の連絡先を聞いていますので上演を頼みたい方はご連絡下さい。(穂積)

12・8 不戦のつどい報告

▼12月8日は80年前日本軍が宣戦布告もなくハワイを急襲した日米開戦の日として知られています。今年の不戦のつどいは、8日より少し早く12月5日(日)午後松代交流センターで開かれました。事前申し込み制で定員30名でしたが、28名の参加で、会場はほぼ満員になりました。今年は広島で被爆された茂木貞夫(もぎさだお)さん、87歳のお話をもとに作成された紙芝居の上演と、茂木さん本人のお話でした。茂木さんは小学校6年生で登校途中、爆心地から約1.4キロの地点で被爆、道の反対側の塀の下敷きになっていました。一緒にいた友人は今も行方不明のままです。茂木さんの顔はやけどで真っ赤になっていましたが、なぜか痛みは感じなかったといえます。自宅に帰つたあとは人事不省になり、気がついたら刑務所内の臨時病舎に寝かされていたとか。その後父親の出身地である茨城県に転居され、平和の語り部として戦争の恐ろしさや戦争反対の意思を今も伝え続けておられます。今回上演の紙芝居は茨城大学紙芝居研究会が作成した「戦争の紙芝居三部作」の中の一作です。現在は「次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ」という会が県内各地で上演を行っています。子どもたちにぜひ見てもらいたい内容のものです。「オリーブ」の連絡先を聞いていますので上演を頼みたい方はご連絡下さい。(穂積)



「東海第二原発はいらない」

2021年の3月に水戸地方裁判所が東海第二原発差し止め訴訟で「原発を動かしてはならない」との判決を下しました。しかし日本原電は控訴し、再稼働に向けて着々と準備を進めています。そのことを広く市民に知らせ、再稼働を阻止するため、「東海第二原発はいらない!首都圏ネットワーク」が結成され、つくば実行委員会ができました。首都圏で同時一斉の行動は、9月11日と12月11日に行われ両日とも約50カ所延べ約600名が参加しました。それぞれの地域で独自の工夫によりアピール活動を行いました。つくばでは「東海第二原発はいらない」の横断幕を掲げて、チラシを配布、シール投票、呼びかけを行ないました。「NEWSつくば」が9/11の一斉行動を記事にしてくれましたのでお読みいただければ幸いです。「NEWSつくば」のホームページで「東海第2」で検索すると読めます。(阿部眞庭)

小説『やさしい猫』 中島京子

中央公論新社／2021年8月・初版／1900円＋税

猫好きならすぐに手に取りたくなるタイトルですが、猫の物語ではありません。本の帯には、「家族三人で暮らしたい、ただそれだけの望みを叶えるのがこんなに難しいなんて」、「強制送還されるか、死ぬか、どちらかを選べと言われている気がする」とあります。そう、名古屋入管に長期収容されて2021年3月に亡くなったスリランカ人のウィシュマさんの事件が明るみに出る前から作者が新聞に連載した小説です。

語り手のマヤは、シングルマザーの保育士ミュキさんの一人娘で、赤ん坊のころ床に落ちた哺乳瓶を撫でて慰めたという、やさしい18歳。小3の時の大震災の後、ミュキさんは一人被災地の保育園にボランティアに行きました。現地で、カレーの炊き出しを手伝っていた年下のスリランカ人・クマさん（通称クマさん）と出会います。

東京に戻って1年ほど経って、ミュキさんは偶然クマさんと再会します。マヤちゃんにも紹介し、初めてアパートに来たクマさんが話してくれたのが、スリランカの「やさしい猫」のお話。3人にはいろんなことがあった後、マヤちゃんが中2になった春、「家族」になることを決めます。否定的な目を向ける周囲に、ミュキさんは言います。「だいじなのは、ナニ人と結婚するかじゃなくて、誰と結婚するかでしょ」

でも、クマさんの失業と、在留カードの期限切れが近づいて、「結婚」は暗礁に乗り上げます。仕事なくなるのは本人のせいじゃない、とか、男が家族を守るのが当たり前というのは古い、とか、就労問題やジェンダーの視点も織り込まれます。

結局、「日本人の配偶者等」になることによって在留資格が得られ、就労制限もなくなるということで、複雑な手続きを経て「婚姻届」が受理されました。ところが、新しい戸籍謄本を持って在留の相談のために品川の東京入国管理局に向かったクマさんはオーバーステイの「不法残留」として逮捕されてしまうのです。



物語は、入管での「インタビュー」（という名の尋問・取り調べのような「口頭審理」）の場面を詳細に描きます。偽装結婚と決めつけはじめに答えありきの尋問の結果、「退去強制令」が出て「五年間の再入国禁止」に処されます。そして、「送還までは無期限収容」です。再審査は認められず、仮放免の申請も却下され、裁判に訴えるしか道はなくなります。

クマさんは、牛久の入管施設に移送され、収容されていたインド人の自死を知って憔悴します。良心的な弁護士さんとの出会いがあり、ミュキさんは訴訟に踏み出します。そもそも、人の自由を奪う収容の判断が、司法機関ではない入管職員の裁量で行われてしまう矛盾（2021.9.18 朝日新聞「著者に会いたい」より）。

入管施設の理不尽で非道い待遇が描かれます。外国人管理の日本の制度とマインドのおかしさにも唾然とします。そして、入管（国の組織）を相手どった訴訟の勝率は、1～2%だといえます。

法廷の場面は手に汗にぎる展開ですがここで結末は書きません。ただ判決前の弁護士さんの訴えは心に染みましました。「家族を引き裂いてしまうことによって、憲法で定められた婚姻の自由と幸福追求の権利を、国が個人から奪うことができるかを問うものです」

中島京子さんの小説は、語り口がとても優しい。それは、登場人物に寄り添い、生き方に共感し応援している姿勢の表れなのではないでしょうか。そして、彼らと読者が結び合うことに、丁寧に心を砕いています。ウィシュマさんに関わった人たちが同じ様であったなら…と悔やまれます。（後藤）

行動予定

※コロナ問題の社会状況の変化により変更する場合があります。

1月22日（土）結103号発行

2月3日（木）アベ・スガ・キシダ政治を許さないスタンディング 13:00～13:30 つくば駅A3出口付近 市民アクション主催

2月9日（水）9の日署名 12:00～13:00 アルス前

2月19日（土）事務局会 10:00～12:30 市民活動センター（予定）

2月20日（日）定例署名（未定）

3月3日（木）アベ・スガ・キシダ政治を許さないスタンディング 13:00～13:30 つくば駅A3出口付近 市民アクション主催

3月9日（水）9の日署名 12:00～13:00 アルス前

3月11日（金）3・11を忘れない 東海原発再稼働反対集会（仮称・詳細未定）

3月19日（土）事務局会 10:00～12:30 市民活動センター（予定）結104号発行

9条の会賛同人の皆様へ

新署名「憲法改悪を許さない全国署名」にご協力ください

憲法改正に前のめりの岸田政権、維新の会などの改憲推進勢力によって憲法9条がきわめて危険な状態になっています。「9条改憲 NO! 全国市民アクション」から上記新署名の要請がきました。「九条の会」も呼びかけ団体に加わっています。以前署名された方も、再度新たに署名をして下さい。今回署名用紙と返送用封筒を同封しました。切手代は申し訳ありませんがカンパでお願い致します。（憲法9条の会つくば共同代表一同）